

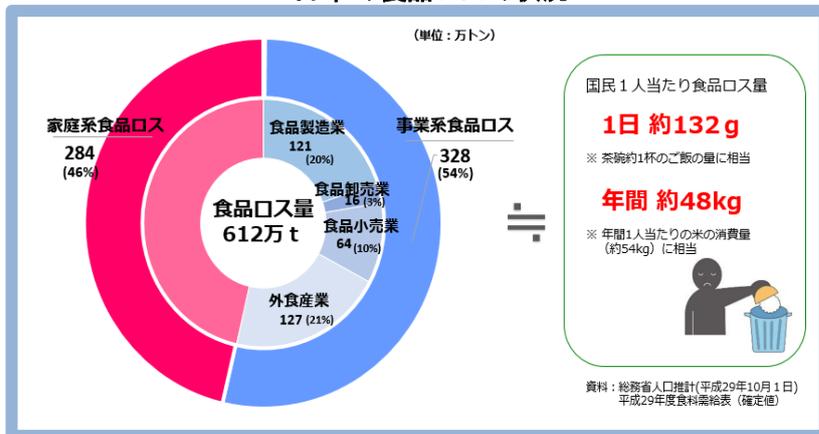
食品ロスを減らしましょう

食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品のこと。日本の食品ロス量は年間600万t。毎日一人お茶碗一杯のご飯を廃棄していることとなります。メーカー、小売店、家庭それぞれがロスを発生させていますが、実はそのうち約半分が家庭から。私たちの工夫で食品ロスはもっと減らせます！

家庭での食品ロスは*過剰除去(食べられる部分も廃棄)*直接廃棄 *食べ残し に分類されます。

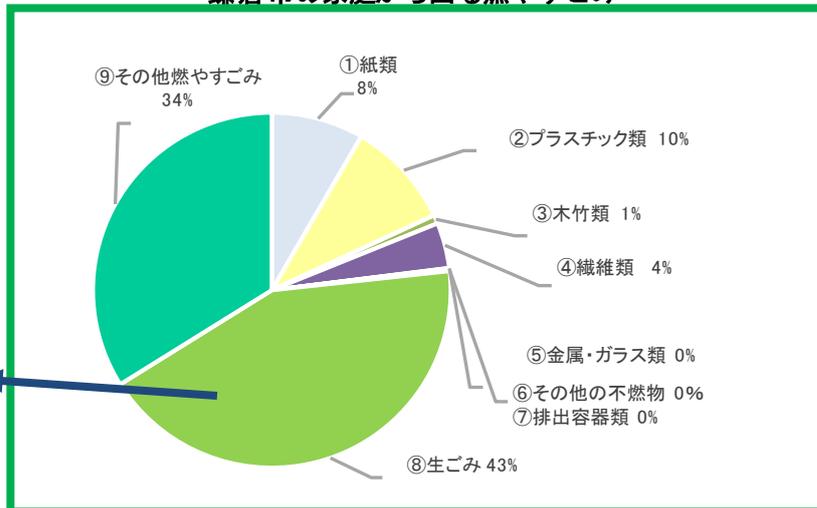
野菜は皮つきのまま調理する、冷蔵庫の中身はこまめにチェック、特売に惑わされて必要以上の買い物をしない、など、もう一度考えてみましょう。

日本の食品ロスの状況



総務省人口推計(2017年度)
食料需給表(2017年度)

鎌倉市の家庭から出る燃やすごみ



家庭系ごみ質組成調査
(2019年度)



生ごみの中には手つかず食品もたくさん入っています

鎌倉市での食品ロスを減らす取り組み

市では、家庭で余った食べ物を持ち寄り、福祉団体、子ども食堂などに寄付するフードドライブを実施しています。鎌倉リサイクル推進会議でも市との2019年度の協働事業でフードドライブに参加し、写真のようにたくさん集め役立てることができました。



2020年11月27日に鎌倉市環境部の、ごみ減量対策課・環境政策課の職員を講師として食品ロスと気候変動についての学習会を開催しました。今回はそこから学んだことをまとめました。

気候変動について考えましょう

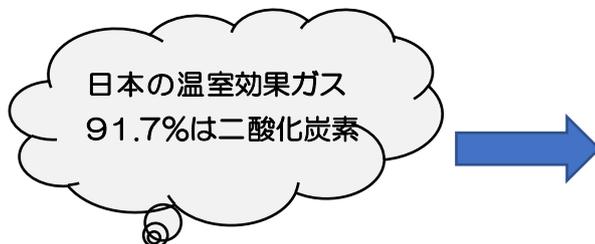
地球温暖化



脱炭素社会へ

大気中に、温室効果ガス(CO₂)やメタンガスが増えると、地球表面の温度が上昇し調節しにくくなります。気温が上昇すると、南極や北極、氷河などの氷が溶けだし、海面が上がり、陸地が沈下。海洋では、異常気象で大型台風が頻発する、海の生き物(魚介・海藻など)の分布が変わる。陸地では、干ばつ砂漠化、山火事発生、森林喪失、野菜・穀物の不育、その結果食料難に陥ることに。

★世界の温室効果ガス
排出量の多い国★
1位 中国
2位 アメリカ
3位 インド
4位 ロシア
5位 日本



★二酸化炭素の原因★
1位 電気使用
2位 ガソリン
3位 ガス使用
4位 灯油使用
5位 ゴミ処理

私たちが身近でできること

- ・LED照明に切り替え・屋上緑化、緑のカーテン・洗濯物のまとめ洗い・照明器具そうじ
- ・余熱調理(鍋帽子など)・炊飯器、保温ポットなどの保温機能を節約・スイッチをこまめに切る
- ・ガスコンロの炎をはみ出させない・冷蔵庫の開閉を減らし詰め込まない・マイボトルを利用する・暖房便座のふたは閉めておく・近距離は車を使わずなるべく歩く・再生可能エネルギーの利用を考える・生活の道具は使い捨てせず修理して大切に使う・食品ロスを出さない暮らしを工夫などなど、省エネを考え、無駄を減らすよう生活していきませんか？

11月27日に開催した学習会から

気候変動は人間活動が起因するとして対策が協議され、1997年の京都議定書で、世界各国に年6%の温室効果ガス排出量の削減が義務付けられ、2016年のパリ協定では全ての参加国に温室効果ガス削減・抑制目標制定が求められ、今世紀後半には、温室効果ガス排出を実質ゼロにすると定められました。

*日本では、菅総理大臣が2050年には温室効果ガス排出をゼロにすると表明しました。

*鎌倉市でも、2020年2月に気候非常事態宣言を出し、2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロを目指すことを決めました。

鎌倉市は市役所のエネルギー使用量の把握、照明のLED化、再生可能エネルギーの導入などに取り組んでいます。また、一部の小中学校、支所などに太陽光発電を設置、事業者には売電用の太陽光発電設備の屋根の貸し出しをしています。これは災害時にも役立ちます。また公用車に電気自動車を導入、一方で省エネ機器設置費の補助金の制度もあります。詳しくは市役所のサイトをご参照ください。

NPO法人 鎌倉リサイクル推進会議の紹介

環境問題をはじめ、Reduce(発生抑制)・Reuse(再使用)・Recycle(再生利用)などについて話し合い、実践する「市民運営型の活動」をめざしています。みなさまのご参加をお待ちしています。

〒248-0027 鎌倉市笛田1-11-34 笛田リサイクルセンター内 ☎0467-32-9094

ホームページ: <http://rarara-kamakura.sakura.ne.jp/>

電子メール: ra.ra.ra@jcom.zaq.ne.jp